



防衛医大病院広報誌 第10号 発行日 令和5年1月27日
企画・編集 防衛医科大学校病院 患者支援センター
発行責任者 塩谷 彰浩
住 所 〒359-8513 埼玉県所沢市並木3-2
TEL 04-2995-1511

まもる 防衛医大【護】通信

市民公開講座

令和4年9月8日(木)に開催しました

市民公開講座は、地域住民の健康水準向上のため、一般市民対象向けの医療講座です。今回は、下記の2つのテーマについてそれぞれ専門医師から講義をいただきました。

① 整形外科 山下 太郎先生より

テーマ『変形性膝関節症について』

膝関節についての講義のあと、症状、現状、治療法、筋肉トレーニングの方法、薬物療法、薬物療法の多様化、膝痛の患者さんの実症例、人工膝関節置換術の進化など具体的な講義がありました。



② 感染症・呼吸器内科 藤倉 雄二先生より

テーマ『新型コロナウイルス感染症のこれまでとこれから』

新型コロナウイルス感染症のこれまでにおいて第1波から第7波のあゆみ、今わかっていることと治療のやり方、新型コロナウイルス感染症のしくみ及び各種治療のやり方、最後に新型コロナウイルス感染症のこれから、今何が問題になっているのか？、インフルエンザとの違い、マスク、ワクチンのこれから、以上のような、タイムリーな講義がありました。



いずれも参加した方は興味深く聴講されており、質問も多数あり、有意義な講座となりました。

以上、参加者から当講座のアンケートにおいて「大変役に立った」とのご意見をいただきました。

次回の市民公開講座においても、皆様のお役に立つ事ができるような講座としたいと考えておりますので、たくさんの方の参加をお待ちしております。

社会保険労務士講演

令和4年10月19日(水)に開催しました

当院通院中又は入院中の患者さん(ご家族含む)に、以下のテーマについて講演を開催しました。

① 『障害手当金の制度改正について』 特定社会保険労務士 石田 周平先生

② 『がんと仕事の両立の両立について』 社会保険労務士 山岸 玲子先生

以上、大変勉強になる講演をしていただきました。次回の講演も是非、ご参加をお待ちしております。

教授就任挨拶 & 診療科紹介

腎臓内分泌内科教授 輸血・血液浄化療法部 部長

大島直紀

2022年4月より熊谷裕生前教授より引き継ぎ、腎臓内分泌内科教授、輸血・血液浄化療法部長に就任いたしました。何卒よろしくお願いたします。腎臓内分泌内科、輸血・血液浄化療法について紹介させていただきます。

腎臓内科について

腎炎、腎不全、ネフローゼ症候群、腎血管性高血圧、電解質異常、多発性嚢胞腎等の疾患に対し、教官3名（輸血血液浄化部・水口講師を含む）、研究科医官5名、専門研修医3名で担当しています。検査、手技としては腎生検、内シャント手術、内シャント血管拡張術、血液透析を含む体外循環療法、腹膜透析療法等を積極的に行っています。輸血血液浄化部の水口講師が2020年1月に当院に就任後、透析患者の内シャント手術がより精力的に行われるようになり、血液透析療法施行への導入がよりスムーズに行えるようになりました。

内分泌内科について

糖尿病をはじめ副甲状腺、甲状腺、副腎、下垂体疾患、高血圧等に対し、教官2名、研究科医官1名、専門研修医4名で担当しています。検査として各種ホルモン負荷試験に加え、当院放射線科のご協力をいただき副腎静脈サンプリング検査を行っています。また2021年より肥満外来が開始され、当院外科で肥満外科手術も可能となっています。

輸血血液浄化療法部について

血液浄化療法部では血液透析を中心とした体外循環療法に加えて透析患者の内シャント手術、シャント血管拡張術等が積極的に行われています。腎臓内科との連携も円滑であり腎疾患をよりしっかり治療できる体制が整っています。また、輸血部では輸血専任技師・臨床検査部検査技師にて24時間対応で業務が行われています。

今後も腎・内分泌疾患患者を積極的に受け入れ、適切な治療を行うことにより近隣の医療機関との連携をさらに強化できればと考えています。引き続き腎臓内分泌内科、輸血・血液浄化療法部をよろしくお願いたします。





テーマ『今改めて考える栄養管理』 第2弾 嚥下機能低下への取り組み

1 「嚥下機能障害の診断と取り組み～耳鼻科医の観点から～」

防衛医科大学校病院 耳鼻咽喉科 宇野 光祐先生

当院では塩谷病院長が開発された内視鏡下経口的咽喉頭部分切除術(TOVS)と術後の嚥下機能にかかわる研究を進め、嚥下障害診療ガイドライン2018に沿って診療している。嚥下内視鏡検査・嚥下造影検査(年間350件程度)を画像で説明された。嚥下内視鏡初見スコア評価で当院佐藤 Dr.らの研究で7点以下であれば約8割の症例が退院時に経口摂取が可能であった。急性期病院として器質的疾患との関連も精査していく中で、誤嚥の有無だけでなくその程度や重症度も評価していき、体位・姿勢・食形態の工夫で最も誤嚥リスクの低い条件を探っている。保存的治療の場合は、嚥下リハビリが基本で嚥下機能の改善もしくは維持が目的になる。外科的治療は経口摂取回復と誤嚥性肺炎防止が目的になる。誤嚥防止術は発声機能を失うが誤嚥を回避し生命予後を改善する。当院での長期間の嚥下リハビリは困難で地域連携が重要になる。

2 「当院における食べることへの支援」

埼玉西協同病院リハビリテーション科 祖父江 花先生

入院患者の2割に嚥下障害がありST(言語聴覚士)が介入している。「口から食べることをあきらめない」「住み慣れた地域での生活をめざした退院支援」を大事にしている。嚥下機能が重度の場合は機能改善よりも栄養改善が先になる。「完全側臥位法」の症例紹介あり。「完全側臥位法」は、重力を使って飲み込めない食べ物を安全に貯めておくスペースの確保ができ、声門が上になり誤嚥しにくくなる。亡くなる前日まで食べる事が出来たり、経口摂取可能となり退院する方もいる。退院時は、患者様のQOLを意識して情報提供している。

3 「訪問歯科での摂食嚥下障害への取り組み」

由貴歯科クリニック 林田 由貴子先生

在宅は療養の中であっても生活する場である。訪問歯科で行う摂食機能療法は安全性だけでなく生き方も尊重して対応している。食べられる口を作る口腔ケア。安全に食べられ本人が食べたいものに近づけること。日常生活の中で続けられるトレーニングをしていく。栄養管理、補助栄養の必要性、摂取カロリーを増やすことも大切である。実際の訪問で、VEの画像を診ながらの摂取や主治医と連携しチーズやワインが食べたい方に、訪問時のみ摂食し最後に吸引する。家族もDr.と一緒に安心して食べさせることができる。小児の嚥下障害も“食べる口”を育てる介入をしている。

【全体討論:嚥下機能障害患者への連携～医療機関と多職種連携～】

座長 患者支援センター 副センター長 大淵 康弘

- ・嚥下機能低下の原因として①先天的異常②後天的異常③加齢に伴うものがあり、原因をしっかり診断するため画像検査を行う。水飲みテスト、フードテストと頸部聴診を組み合わせる。栄養状態、精神疾患の有無を確認し情報収集していただくといよい。
- ・埼玉西協同病院より「食べることの支援プラン」を作成し連携する際に利用している。
- ・保険制度について、介護保険の中で歯科衛生士も加算が取れる。間接訓練や会話も大事である。
- ・オーラルフレイル予防として口腔機能低下症と対策について説明があった。

病院理念

高度で安全な医療を提供しつつ地域医療並びに自衛隊の医療・衛生活動に貢献し、優れた自衛隊医官・看護官等を育成します。

基本方針

- 1 患者さんの視点に立った、安全で良質な医療を提供する
- 2 地域医療機関と密に連携し、地域に貢献する
- 3 高度で先進的な医療を追求する
- 4 地域の中核として救急医療を追求する
- 5 新興感染症に対して敏速対応できる体制を整える
- 6 災害対処能力の向上に努める
- 7 使命感をもち、優れた臨床能力を有する医官・看護官等を育成し、自衛隊医療に貢献する

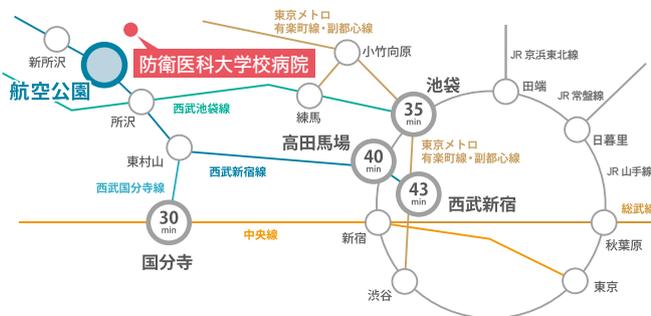
【初診予約についてお願い】

当院の精神科、感染症・呼吸器内科、脳神経内科、膠原病内科、血液内科、糖尿病内分泌内科、泌尿器科（泌尿器科一般・尿路腫瘍）、泌尿器科特殊外来【尿道狭窄症・尿失禁（男性）】、消化器内科特殊外来（脂肪肝）の初診外来は完全紹介予約制とさせていただきます。

上記診療科初診希望の患者さんを紹介頂く場合は、医療機関の皆様から当院地域医療連携センターへFAXにて初診予約をお願い致します。患者さんからの予約は受付しておりません。ご理解・ご協力を宜しくお願い致します。また、暫くの間、膠原病内科と感染症・呼吸器内科は、診療体制的に初診予約を中止させて頂いております。

地域医療連携センター（初診予約・病状照会等連絡先） 内線 3043・3882 FAX 04-2995-1130

アクセス(交通のご案内)

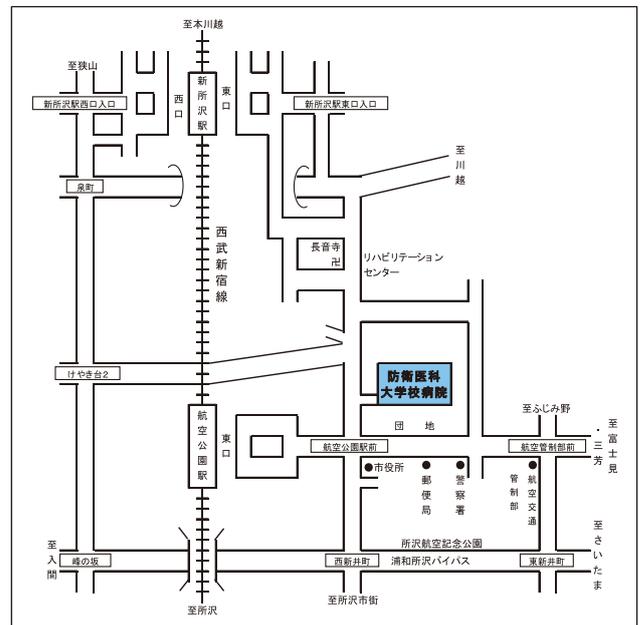


●電車でお越しの方

西武新宿線「航空公園駅」下車徒歩5分

●車でお越しの方

浦和所沢バイパス「西新井町」交差点を右折し約600m



医療連携の連絡先

地域医療連携センター

初診予約、緊急入院・受診、
セカンドオピニオン、病状照会等

TEL：04-2995-1511

内線 3043・3882

患者支援センター

転院・退院調整、在宅調整、医療福祉相談、
がん患者相談等

TEL：04-2955-1511

内線 6123～6126